

# 桂浜公園にふさわしいデザインの提案

## 1. 背景と目的

高知市は桂浜公園の老朽化に伴い再整備を検討し2014年度に桂浜公園整備基本構想案を作成した。平成32年までに高知県を代表する名所にする方針である。本研究は高知市が出している桂浜公園整備基本構想案に基づいてデザインを提案した。土地固有の景観に配慮した設計を行うことでいつまでも高知を代表する観光地であり続ける桂浜公園の設計を行う。

※今回の提案は高知市に委託された物ではなく筆者個人の責任で提案を行ったものである。

## 2. 桂浜公園の現状と課題

現在、桂浜公園の年間観光客数は大河ドラマ龍馬伝が放送された2010年から年々減少傾向に或る。その理由として主に施設の老朽化と多様化する観光客のニーズに応える事ができていないという点が挙げられる。以下に具体的な課題を挙げる。

### 主な課題

- ・自然資源を活かしきれていない
  - ↳ 駐車場が防波堤に囲まれており海が見えない
  - ↳ 人工物が風景に馴染めていない
  - ↳ 生き茂る植物や海を感じる空間が少ない
- ・月の名所という肩書きを持ちながら夜は暗く人が少ない
- ・商業施設に魅力が少なく。経営が上手くいっていない。
- ・公園内の人の疎密が大きい
- ・地域との繋がりが少ない
- ・くつろげる空間が少ない
- ・エリアの回遊性がない
- ・バリアフリーでない
- ・老朽化している

格式分け図

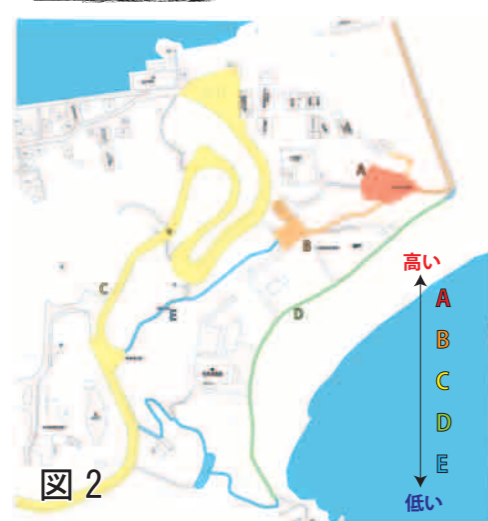


図2



図1

## 3. デザインコンセプト

3つの段階を経てデザインコンセプトを考えた。

### 1. 空間の格式分け

その場に適した物を配置しなければ風景に溶けることはできない。特に公園内に張り巡らされた街路ではその格式がどこでどのような理由で変わるのかを理解しておく必要がある。例えば、自然の生き茂る空間では座りやすい綺麗なベンチを置くより座れる程度の石を置いておくほうがその場に溶込み機能としても十分足りる。

### 2. 時間の経過

出来たときの姿はもちろん出来てから数年たった風景がその場に溶け込んでいるかという事をイメージしながら設計を行った。始めから処理をするのではなくその土地の力で自然に起こった形の変化を組み込む事が機能を維持する上で有効である。その土地に溶込むデザインを実

現できる。創られたものではなく、自然に溶込み混ざりあったものは失われにくい。これから起こるであろう南海トラフへの防災対策として活用できる丘や自動車の自動運転化にも配慮した駐車場も時間とともに一層空間に溶込む。

### 3. 高知らしさ

高知らしさを考えることで文化が溶込み自然に人が集まってくる空間を目指した。私の考える高知らしさとは皿鉢料理やひろめ市場に代表されるごちゃまぜの文化である。朝から晩まで酒を飲み無秩序を好むようなイメージを与える高知県の風習を土地に根付かせることが大切である。桂浜公園では高知県の強い日差しにより鬱蒼と生き茂る植物の力を感じる事ができる。まるで、人工物を溶かすように浸食する植物はうまく人工物と調和する。

人工物が溶けて混ざる様をデザインの面で表現する事が可能であると考えた。高知の文化を根付かせる空間はもちろん溶けて混ざり行く風景を感じる事で触れる高知らしさを意識したデザインを行った。

溶けて混ざるをデザインコンセプトとし統一感のある空間を形成した。



図3



商業施設に空いた大きな窓からは生い茂る植物が見える。人工物を溶かすように浸食する植物は高知の自然を感じさせるとともに商業施設内を溶かすように空間を混ぜ合わせる

図 4



2 タワーの展望台はまるで海が溶込んでいるような眺めである

タワーをつたって伸びたツタは橋に絡まり空間を混ぜる

図 5



3 行動の制限をしないパラソル空間では昼からお酒を飲む人や単色カラーのパラソルがおかれ高知の文化が溶ける

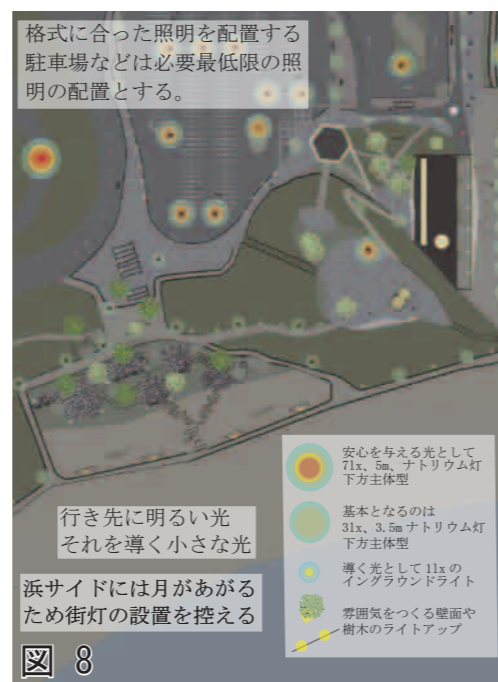
直線ではなくほんの少し曲げるだけで自然な仕上がりになる

図 6



4 駐車場・ロータリーからは龍馬像、エレベーター、商業施設をいっぺんに見る事ができ、行き先が分かりやすい

図 7

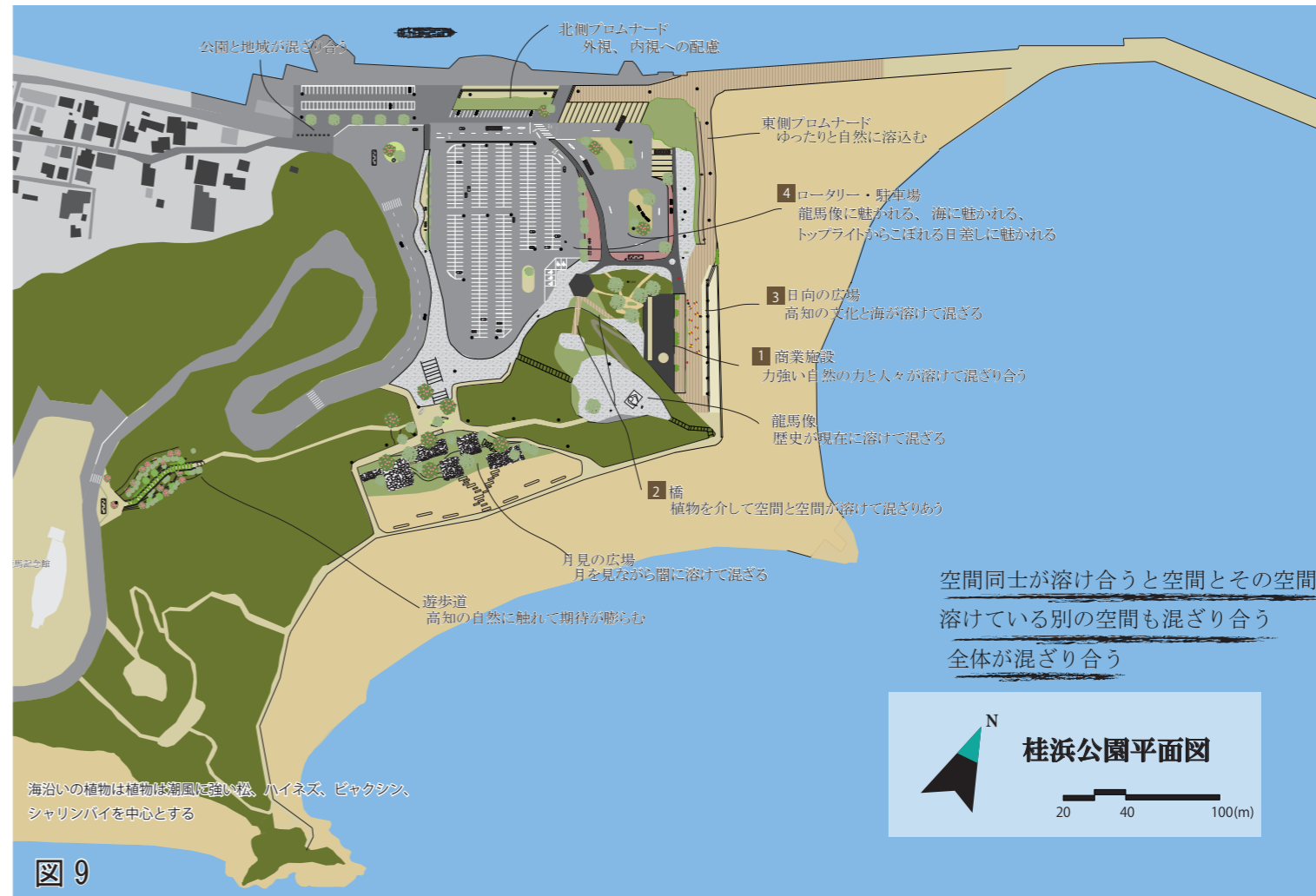


格式に合った照明を配置する駐車場などは必要最低限の照明の配置とする。

行き先に明るい光 それを導く小さな光

浜サイドには月があがるため街灯の設置を控える

図 8



空間同士が溶け合うと空間とその空間に溶けている別の空間も混ざり合う 全体が混ざり合う

桂浜公園平面図

図 9

桂浜整備基本構想案

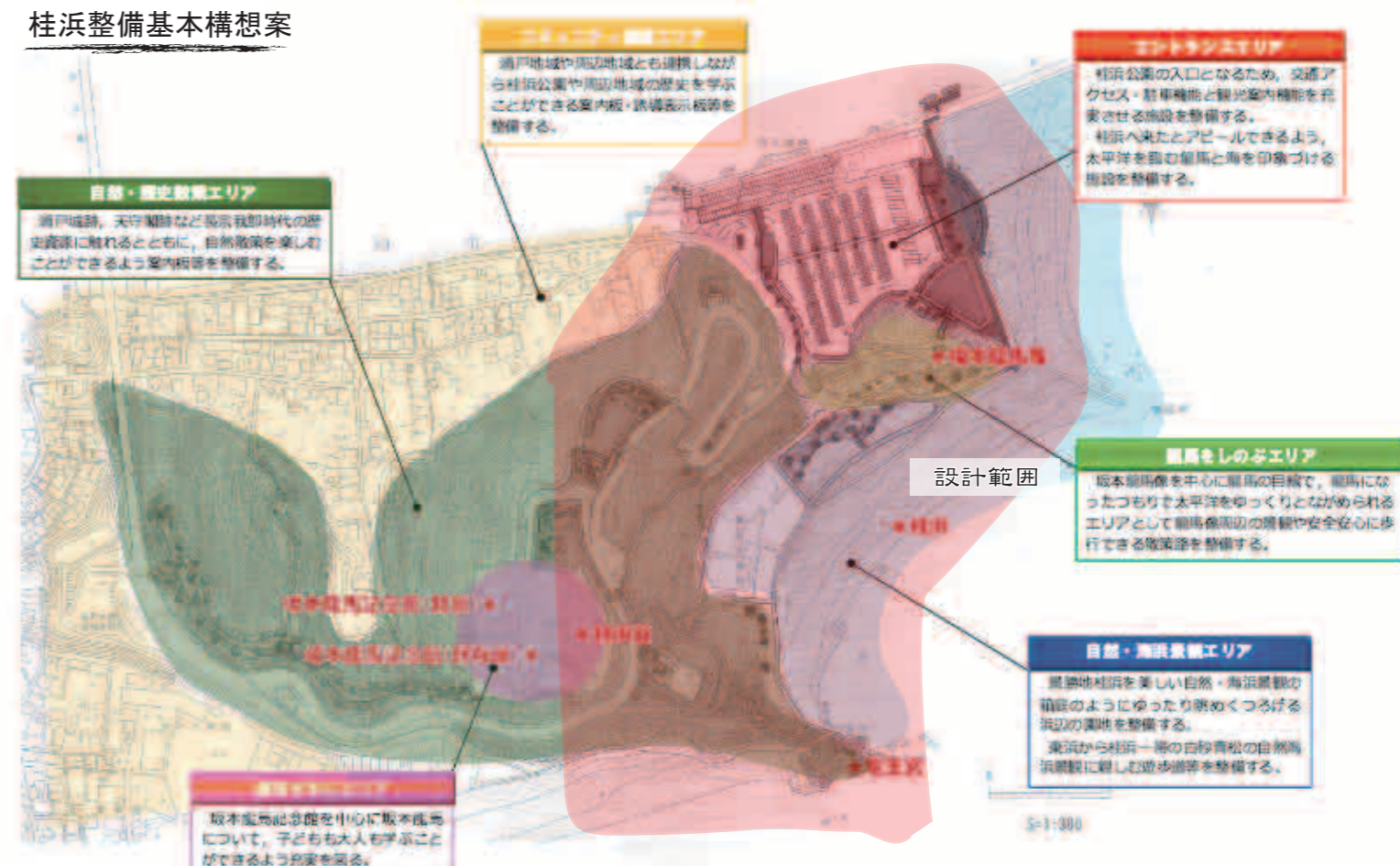


図 10

桂浜公園整備基本構想案に設計範囲などを加筆